

第2回教職員セミナー「ねえ聞いてっしゃ」開催報告③

NO.46 からの続きです。◆参加者からの感想です。



○久々に徳力市民館(徳力地域交流センター)にきました。児童厚生員の方や、元支援加配などをされた方の話を聞いて昔を思い出しました。時代は変わり、昔とは違う状況ではありますが、いろいろと背景を持った児童生徒はたくさんいると思います。そのような児童生徒や保護者の思いを受け止めることが重要な事は、昔も今も変わらないと思いますが、今の学校現場を見ていると関わりが薄く、機械的な{対応}が多いように感じます。話続けるしかないとは思いますが、昔のような職員、学校体制にと思いますが、現場の多忙化や職員の意識や考え方などの変容などから難しさを感じています。しかし、今日の話からコミュニケーションのとりかたや褒めること、日常の声かけや継続するかことの大切さなど多くのポイントを再確認する良い機会となりました。貴重な話をありがとうございました。肉うどんも美味しかったです。準備からお疲れ様でした。

○山下さんの、「出逢ったら、最後まで付き合うけんね」という言葉が心に刺さりました。6年経つと異動になる学校職員。時々、大きくなつた子ども達が元担任の先生を訪ねて来てくれますが、その学校にいないことがほとんどで…まだまだ工夫改善すれば学校、委員会ともできることがたくさんあると思います。私も教え子との死別が今教員として現場に立っている大きなきっかけになっています。またお話をたくさん聞かせてください。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。

○お話を聞きながら、これまで出会った子どもたちのことを考えていました。私ではあと一歩とどかなかつたな…もっとできることがあったのでは…と思うところがたくさんありました。これから出会う子どもたちには返していくように、自分自身も行動していきたいと思います。ありがとうございました。



○大里東小学校として、子どもたちとどう向き合うか…一人の教師としてどう向き合うか…今私には何ができるんだろう…と思いました。これを共有できる学校なのか、教員たちでもう一度、語り合わなければと思いました。大里東児童館へ行き、クラスの子ども達の様子を見るなかで背景を知る、自ら足を運ぶことが今私ができることだと思います。本音と向き合うには、私達の本気が大切だと思います。様々な世の中が変わるなかでも、できることはあります。やります！！



○今は、心の中に秘めている子どもたちが多いという山下さんの言葉にとても共感できました。子どもたちの行動から、気持ちに少しでも気づくことができる教師になりたいと思いました。また、お二人のお話の中で、勉強していないことを後悔してらっしゃる教え子さんのお話が出てきました。今を楽しみ、今を全力で生きている子どもたち、先のことまで想像することはむずかしいと思うので、少しずつ伝えて、後悔のないように手助けができればいいなと思いました。とても貴重なお話、ありがとうございました。

コロナ禍以降、家庭訪問は次第に実施しづらくなり、いつの間にか「行わないこと」が「ふつう」となっていませんか。家庭訪問を重視しない学校が増えてきたと感じている方も多いのではないでしょうか。

しかし、今回の山下さんと溝井さんの実践に触れ、改めて「やはり家庭訪問は大切なのだ」と実感された方も少なくなかつたはずです。子どもたちが「抱える思い」や「本音」の背景を見取るためには、学校だけでは見えない、子どもたちの「暮らし」に目を向けることが欠かせないのでしょうか。

本セミナーへの参加、ありがとうございました。時には、子どもや保護者からの心ない言葉に心が折れそうになる日もあるでしょう。それでも教育現場で子どもたちと向き合い続けているみなさんに心から敬意を表します。日々の実践、本当にお疲れ様です。

わからないこと・困ったことがあつたら… 何でも気軽にお問い合わせください！



JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail:jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

